

日蓮大聖人御書全集

なんじょうどのごへんじ

南条殿御返事

しよにんくよう　こと

（諸人供養の事）

新版
1855

なんじようどのへんじ しよにんくよう こと

南条殿御返事（諸人供養の事）

けんじ ねん がつ にち さい 建治 2 年（'76） 3 月 18 日 55 歳 なんじようときみつ

ねん 建治 2 年（'76） 3 月 18 日 55 歳 南条時光

芋 頭 かわ海 苔 山 葵 いちいち ひとびと おんこころざし

いものかしら、河のり、またわさび、一々、人々の御志

うけたまわ そうら とり 卵 養 うし こ うし 舐

承り候いぬ。鳥のかいごをやしない、牛の子を牛のねぶ

るがごとし。

そ ころも み 包 じき いのち 続 ほけきよう

夫れ、衣は身をつつみ、食は命をつぐ。されば、法華経

さんちゆう よ そうろうひと 養

を山中にして読みまいらせ候人をねんごろにやしなわ

たも しやかぶつ ほけきよう いのち 続

せ給うは、釈迦仏をやしないまいらせ、法華経の命をつぐ

みようしようごんのう さんしよう さんちゆう 養

にあらずや。妙莊嚴王は三聖を山中にやしないて

しやらじゅおうぶつ

だんのう

あしせんにな

くよう

しやかぶつ

成

沙羅樹王仏となり、檀王は阿私仙人を供養して釈迦仏とな

たも

かなら

読

書

ひと

くよう

らせ給う。されば、必ずよみかかねども、よみかく人を供養

ほとけ

うたが

きよう

い

すれば、仏になること疑いなかりけり。経に云わく「こ

ひと

ぶつどう

けつじよう

うたが

の人は仏道において、決定して疑いあることなけん」。

なんみようほうれんげきよう

なんみようほうれんげきよう

南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。

けんじにねんさんがつじゅうはちにち

建治二年三月十八日

にちれん

かおう

日蓮

花押

きんじよう

なんじようどのごへんじ

謹上 南条殿御返事

きつさぶろうどの

たろうのたゆうどの

いっし

しかじか

おそ

い

そうろう

かえ

橘三郎殿・太郎大夫殿、一紙に云々、恐れ入り候。返

がえ

伯

耆どの

よ

き

たま

す返す、はわき殿、読み聞かせまいらせ給え。